

尾道市立市民病院広報誌

第16号

発行日:平成22年10月

〒722-8503
尾道市新高山3丁目1170-177
tel:0848-47-1155
fax:0848-47-1004
<http://www.onomichi-hospital.jp/>

院内広報誌

第16号

尾道市立市民病院理念

尾道市立市民病院は、信頼される安全で
質の高い医療を提供し、市民の皆さまの健康を守ります。



ごあいさつ

平成16年4月に尾道市立市民病院外科に赴任して、現在6年半が過ぎようとしています。それ以前は福山市の中国中央病院外科に16年間勤務していました。出身は岡山で、昭和54年に岡山大学医学部医学科を卒業し、岡山大学第一外科学教室に入局しています。

平成17年から5年間、尾道市立夜間救急診療所長を務めさせていただきました。この間、尾道市立市民病院の救急運営委員会の委員長も務めましたが、かの自民党 小泉政権下で採用された新臨床研修システムの弊害で、研修医、若手医師の不足が顕著となり、一時期、当院の救急システムが成り立たなくなる危機に瀕しました。当時の院長 太田先生、突沖医局長、内科 水戸川医師、黒田事務部長と東奔西走し、尾道医師会、松永沼隈医師会、因島医師会、JA尾道総合病院からの日当直応援をいただくことが出来るようになり、何とか緊急事態を切り抜けられたことがつい先日のように思い出されます。この応援システムは平成20年5月より始動し、皆様のご努力により現在も順調に稼働しております。当初、私が当院に赴任してきた時、当院への救急搬送の多さ、緊急手術の多さに驚きました。毎日8～10台の救急搬送があり、夜間救急診療所だけで年間約7000人を超える患者さんを診療しています。当院は尾三地域の救急医療の中核をなしています。ですから当院の救急診療の危機は尾三地域住民の方々の救急医療の危機に直結いたします。救急診療を充実させるためには、やはり医師の確保が重要です。なにとぞ当院救急診療への御支援よろしく願いいたします。

平成22年4月から、臨床研修指導・職員教育研修指導責任者となり、初期・後期臨床研修医の確保およ

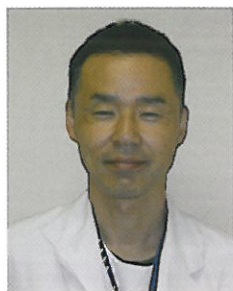
び指導にあたり、また各種学術講演会、市民公開講座等を開催いたしました。研修医の都会志向、大病院志向は現在でも根強く続いており、当院のような地方の基幹病院はその確保に苦労しています。尾道市は風光明媚な魅力ある観光都市で、病診連携が密接で、更に在宅医療関係はトップレベルの地域です。こういった他地域では得られない経験が出来ることをアピールしながら、より充実した研修体制を構築するつもりです。

平成22年6月より尾道市立市民病院がん診療統括部を立ち上げました。従来よりいわゆる5大がん（肺がん、胃がん、大腸がん、肝臓がん、乳がん）の患者数は多く、また他のがん患者さんも合わせると、年間1200人程度の新規がん患者さんを診療しています。

当院では以前よりがん診療拠点病院を目指すべく、外来化学療法、院内・地域がん登録、がん関連クリニカルパス、緩和ケア、がん患者相談支援センター、セカンドオピニオン等のシステムがそれぞれチームを作って稼働しております。このがん診療機能をより強化すべく、また横の連携をスムーズにするために、がん診療統括部が活動しています。月に1回のがん診療統括部連携委員会を開催し、それぞれの部署での課題、今後のビジョン等について討議しています。またがん診療統括部主催の講演会も開催しております。患者さんにより充実した、より高度ながん診療を提供すべく、日々努力していく所存ですので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

尾道市立市民病院 副院長
がん診療統括部部長 中井 肇

小児科紹介



小児科
佐藤 正義 医師

尾道市立市民病院小児科は、平成22年9月より常勤医1人で佐藤が担当しています。当院小児科における一般外来は午前外来のみで、主に感冒や胃腸炎、インフルエンザ等の感染症を中心に診療を行っています。午後からの診療は予約制で、火曜日の乳児健診、水曜日の予防接種を、また木曜日、金曜日には慢性疾患患者さんの診療を行っています。主にアレルギー疾患、てんかんなどの神経疾患、腎疾患、内分泌代謝疾患、血液免疫疾患などの患者さんを一般外来の患者さんとは区別して診療にあたっています。また午後からの急な発熱などの救急外来は可能な限り随時受け入れができるよう対応しています。その他、非常勤医師による専門外来を行っています。月に1回県立広島大学の林優子教授による自閉症や注意欠陥多動性障害などのお子さんを対象とした、小児発達外来を行っており、また偶数月の第4金曜日には倉敷中央病院小児科の脇研自先生による小児循環器外来を行っています。

一方、身長伸びが心配なお子さんに対して低身長の相談を電話でも受け付けています。現在低身長外来では、成長ホルモン分泌不全性低身長症、ターナー症候群、軟骨異栄養症を中心に多くの患者さんが受診され成長ホルモン治療を受けており、成長ホルモン治療への反応は比較的良好で、ほとんどの患者さんが途中で中断することなく治療を継続することができています。また最近では食物アレルギーをお持ちのお子さんも多く、種々の食事制限が行われていますが、出来る限り食物制限は少なくしたいとの考えから、外来または入院において食物負荷試験を行い、安全に食物を摂取してもらえるように積極的な評価を行っています。

平成21年の入院患者数は計250人で、感染症、免疫、アレルギー、リウマチ、膠原病、呼吸器、血液、腫瘍、代謝、内分泌、消化器、肝胆膵、腎、尿路、神経、筋、新生児など全ての分野で幅広く対応しており、当院出生の新生児は、全て小児科回診を行い新生児疾患の早期発見、早期治療に努めています。また帝王切開での出産は小児科医立会いのもとで行われ、出産が安全に行われるよう努めています。

現在当院小児科は、主に1次、2次救急の患者さんと慢性疾患のお子さんに対する診断、治療にあたっておりますが、高度な医療が必要な場合においては大学病院などと連携をとりながら、地域のお子さんが安心して暮らせるように努めております。

こんにちは ♥ 助産師です

助産師は英語では「Midwife」、仏語では「Sage-femme賢い女」（・・・恐縮です。）、独語では「Hebamme 取り上げる」と言い、それぞれの意味を持っています。

日本では「トリアゲババ」や「産婆」などと称され、出産の支援が原点となっています。

産婦人科病棟はお母さんや可愛い赤ちゃんに囲まれ、明るい雰囲気がただよう病棟です。

現在、その病棟には9名の助産師が、また外来には1名の助産師が勤務しています。

妊娠中の保健指導や分娩介助・産褥期の看護や新生児期の看護を実践していますが、活動は多岐に亘った内容を展開しています。その活動の一部をご紹介します。

妊婦保健相談室

当院の産婦人科は外来と病棟とが一元化しており、病棟助産師が外来業務も行っています。

そのため、入院生活になっても初対面ではないため、安堵の表情をみせられる患者さんがおられます。

さらに妊婦の方を対象に、妊婦健診・保健指導を始めました。血圧測定・体重測定・検尿・胎児の心音聴取などのほかに、悩み事や心配事などについて個室でアドバイスを行っています。



●産後の骨盤ケア

骨盤ケアが必要な理由は・・・？

妊娠すると骨盤の関節などをつないでいる靭帯はゆるみます。靭帯のゆるみは出産に向けての体の準備であり、分娩時には最大になります。

この靭帯のゆるみは、妊娠中は腰痛・恥骨痛・股関節痛尿漏れといった症状を起こします。

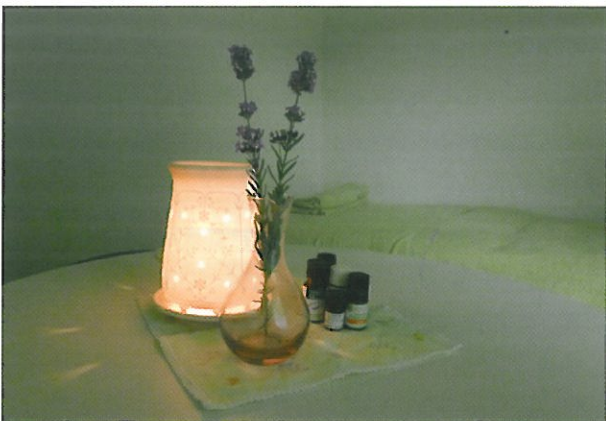
また、出産直後にゆるんだままの状態で行くと、骨盤の形がゆがみ、腰痛・尿漏れ・恥骨痛・下半身太りの原因になると考えられています。

そこで、当院ではとくに分娩直後（妊娠中も相談にのります）から腹帯による骨盤のケアを行っています。

●産後のアロママッサージ

分娩を乗り越え、育児を始めたお母さんにリラックスと癒しの時間を持っていただくために、ご希望によりセラピストによるアロマトリートメント（マッサージ）を提供しております。

心地よい音楽と、芳香の中でライトを落とし、ゆっくりとした時間を過ごしていただいています。



●思春期電話相談・出前授業

思春期の子どもたちは日々、ジェラシーやコンプレックスと向き合っています。

そんな自分探しの旅をしている子どもたちやお家の方と、思春期保健相談士の認定を持つスタッフが電話や面接でお話しています。



また、学校からの依頼があると学年を考慮し、「いのち」「生」「性」などの内容で出前授業を行っています。

自分の存在を肯定し、自信を持って子ども自身が『私（僕）ってすごい!!』と思えるようメッセージを込めてお話をします。

最後にこれからも、妊婦の安全はもちろん、快適な妊娠・出産・育児ライフが過ごせるように活動していきたいと思っています。（マタニティヨーガを取り入れた母親学級・カンガルーケア・母乳育児外来・退院後1週間健診などはまたの機会にご紹介します。 つづく・・・）

●ベビーマッサージ

毎月第4水曜日、14時からベビーマッサージ教室を行っています。（お母さんか、子どもさんが当院に受診歴がある方に限らせていただいています。）

ベビーマッサージは、親子の絆を深め、より楽しく育児できるようになるためのコミュニケーションのひとつのツールです。

教室では、できるだけ自由な雰囲気を作り、終了後はハーブティーを飲みながら、育児相談を受けたり、お母さん同士がお友達になれるような雑談の時間を設けています。

助産師として、妊娠、出産に関わらせていただいた親子の様子、特に子どもさんの成長を毎月見せていただけるのは、とても幸せを感じる時間です。



産婦人科紹介



全国的に医師不足が言われていますが、当院でも産婦人科は平成18年9月から私、大村が一人体制で診療を行っております（火曜日は岡山大学から応援医師の派遣を受けています）。外来診療は月曜日から金曜日の午前中で、火曜日だけは二診制として大村は予約外来を行っています。

近年、子宮癌検診の普及にともない子宮頸部の進行癌は減少しましたが、逆に前癌状態あるいは初期癌で発見される症例は増えてきており、予防ワクチンが登場したとはいえ今後もこの傾向は続いていくものと思われます。一方、子宮体部と卵巣においては進行癌が増加する傾向にあります。当科では原則として全例に経腹・経膈超音波検査、子宮頸癌、体癌検診を行い、婦人科癌の早期発見につとめています。また日常社会のストレス化にともない、疾患を心身両面からとらえて対応していくことも重要になってきています。例えば内分泌的な体の変化に心の問題や社会的な問題などが絡み合って身体的症状として発症してくる更年期障害、月経不順や性に関する不安、悩みなど種々の問題をかかえた思春期、これらの患者さんに対してはまず

じっくり話を聞き、気持ちと身体の両面から治療を行うようにつとめています。特に思春期の問題に対しては、思春期保健相談士の資格を有するスタッフが、より専門的な立場から問題解決に取り組んでいます。

産科に関しては安心して妊娠、産褥期間をすごせるよう、妊婦健診以外にも「母親学級」や「助産師による保健相談室」などを設けてスタッフが直接患者さんと触れ合う時間を大切に、出産後も子育てに対する不安や疑問についての相談に応じられるよう、細やかな対応をとっております。具体的には退院1週間後検診や母乳外来などがこれにあたり、必要があればその都度小児科医と連携をとる態勢にしています。また、ベビーマッサージや個別の育児相談なども行っております。出産についてはあくまでも自然分娩を基本方針としており、「お産を見守る」をモットーにできるだけ無用な処置は行わないようにしています。妊娠中から助産師の助言、援助も積極的に行っており、可能な限り個々のパースプランに添った分娩方針をとるようにしています。

昨今の医療事情から考えてこの先も産婦人科は医師一人の体制が続く可能性が高く、高度医療への参入やマンパワーを要する症例への対応が困難な状況は続くと思いますが、疾患のみを診るのではなく個々の患者さんにとって最善の医療を提供する、をモットーに今後も地域医療に貢献していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

産婦人科
大村 裕一 医師



皮膚科紹介



皮膚科
上田 武滋 医師

皮膚は外環境に面した臓器であり、外環境の影響を強く受けやすい臓器です。そのため扱う疾患も季節により変化しやすいのが特徴です。これから迎える冬季には空気が乾燥し気温が低下してきます。空気の乾燥によって皮膚も乾燥し皮脂欠乏性湿疹が増加しますし、顔面頭部は脂腺分泌が亢進するため脂漏性皮膚炎という湿疹が多くなります。また、寒くなると血管は収縮しやすくなるため糖尿病、膠原病、慢性動脈閉塞症などによる皮膚潰瘍も発生しやすくなってきます。もともと内科などにかかっている当科へ紹介されて来る方もありますし、治りの悪い傷から膠原病が発見されたという方もあります。

当科の診療の特徴のひとつは、このような潰瘍治療です。潰瘍の原因を調べ、その対処策を考慮しながら潰瘍を治療していきます。治療薬、創傷被覆材の種類も豊富にあり、患者さんの状態やQOLに合わせてこれらを選択して治療に当たります。皮膚がんや皮膚良性腫瘍、陥入爪などについては皮膚移植を含めた外科手術を行います。術後には抜糸前から入浴できるようにするなど患者さんのQOLを損なわないように心掛けています。熱傷や皮膚外傷にも対応しており、早くきれいに治すことをモットーとしています。

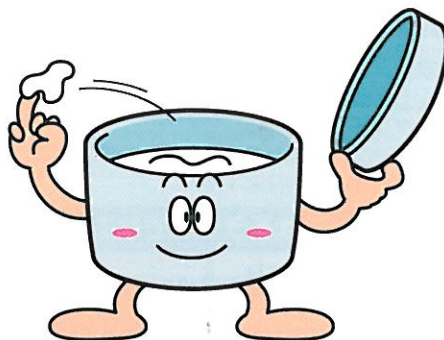
【外傷性潰瘍】



〈治療前〉

このほか、ナローバンドUVBなどの光線療法、円形脱毛症にはSADBEを使った免疫療法を実施しています。ナローバンドUVBを照射する光線療法は平成18年1月より実施していますが、尋常性乾癬、尋常性白斑、菌状息肉症（皮膚原発のリンパ腫）などの疾患では外用療法だけでは得られないような治療効果上げています。手技も簡便で、治療後の患者の日常生活に対する制限もなく、毎日数名の患者さんがこの治療を受けておられます。また、円形脱毛症に対する免疫療法は発毛率が高く、患者さんの満足を得られています。もちろん、アトピー性皮膚炎をはじめとする湿疹や、帯状疱疹、尋常性疣贅などのウイルス感染症や蜂窩織炎、伝染性膿痂疹など皮膚細菌感染症、足白癬や爪白癬などの真菌感染症にも適切な治療を提供しています。

皮膚について困ることがありましたら尾道市立市民病院皮膚科を受診してください。



〈治療後〉

臨床心理士紹介



はじめまして。

平成22年4月より、当院で初めての臨床心理士として勤務させていただいている村山と山田と申します。よろしくお願いいたします。

臨床心理士と聞くと、あまりなじみのない方もいらっしゃるかもしれませんが、臨床心理士について簡単にご紹介したいと思います。

● 臨床心理士ってどんな人？

臨床心理士は、心理学の知識や技術を用いて、主に患者さんやご家族のお話をお伺いする「こころの専門家」です。

お話をお伺いする中で心理検査等をすることもあります。

● 臨床心理士にはどうやってなるの？

臨床心理士の資格は国家資格ではありませんが、文部科学省認可の日本臨床心理士資格認定協会による資格で、指定大学院を修了し、試験に合格する必要があります。また、5年ごとに資格更新があります。

● 臨床心理士はどこで働いているの？

病院の精神科や心療内科、小児科のほかに、学校や企業の相談室、児童相談所、家庭裁判所、私設心理相談室などで働いています。

私たちは、病院全体で横断的に仕事をしています。

● 市民病院でどんな仕事をしているの？

ひとつには緩和ケアチームでの仕事があります。私たちは緩和ケアチームに所属し、チームでの回診、在宅訪問に同行しています。また、チームで関わる患者さんやご家族のお話を伺っています。

その他に外来では、脳神経外科やもの忘れ外来で神経心理学的検査をしたり、外来化学療法室で治療中の患者さんのお話を伺ったりしています。病棟では、主治医から依頼のあった患者さんにお話を伺ったり、心理検査を実施したりしています。

主に身体疾患のある患者さんの日常の悩み事やこころのつらさなどの相談を受けています。また、できるだけ多くの患者さんに声をかけられるように心がけています。悩み事やこころのつらさがなくても、気軽に声をかけていただければ幸いです。

● 市民病院の臨床心理士はどんな人たちの？

村山は、徳島大学大学院人間・自然環境研究科臨床心理学専攻を平成18年に修了し、約2年間精神科病院に勤務した後、約2年のブランクを経てこの4月より当院で勤務しております。また、平成19年に臨床心理士資格を取得いたしました。

山田は、愛媛大学大学院教育学研究科学校臨床心理専攻を平成21年に修了し、1年間、愛媛県の中学校でスクールカウンセラーとして勤務した後、今年4月より当院で勤務しております。

まだまだ若く至らぬこともあるかもしれませんが、患者さんやご家族の療養生活の安寧に寄与できるよう努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

臨床心理士 村山 直子
山田 幸

どうぞ、お気軽に声をおかけください。まずは、一緒に話しをしてみませんか？



栄養管理室から ☆当院の嚥下食について☆

● 嚥下機能に適した食事を ～安全な経口摂取を行うために～

高齢による嚥下機能の低下や脳血管障害などの既往がある方は、食事の際「食べ物が飲み込みにくい」「のどにつかえる」「むせる」といった症状で、食事摂取量が低下し、低栄養・脱水・誤嚥性肺炎・窒息等の危険性が高くなります。当院では、嚥下状態を把握するために、医師・言語聴覚士等が嚥下機能の状態を評価し、個々にあった食事を提供しています。

当院の嚥下食についてご紹介します。嚥下食は4段階に分かれています。

当院嚥下食種

嚥下食 ピラミッド	L0 開始食	L1 嚥下食 1	L2 嚥下食 2	L3 嚥下食 3	L4 移行食
嚥下食区分	嚥下食 I		嚥下食 II ミキサーソフト食	嚥下食 III ミキサーペースト食	嚥下食 IV キザミ食
形態例	表面がつるつるのゼリー		ざらつきのある ムース状	ペースト状	普通食を軟らかくしたもの

嚥下食 I	嚥下食 II (ミキサーソフト食)	嚥下食 III (ミキサーペースト食)	嚥下食 IV (キザミ食)
 <p>食形態</p> <ul style="list-style-type: none"> お茶や果汁を用いたゲル状ゼリー 粘膜への付着性が低く、重力だけでスムーズに咽頭を通過する物性 <p>対象患者</p> <ul style="list-style-type: none"> 重度嚥下障害者 食道への送り込み低下等 食塊形成や咽頭への送り込み機能が著明低下 絶食から食事開始する時 	 <p>～ゲル化剤使用～</p> <p>食形態</p> <ul style="list-style-type: none"> ゼリーやムース類のゲル状のもの 口腔内や咽頭でざらつきやべたつきがある <p>対象患者</p> <ul style="list-style-type: none"> 中等度嚥下障害者 咽頭残留があっても複数回嚥下、交互嚥下で残留物除去する人 ある程度舌による送り込みができる人 	 <p>～とろみ剤使用～</p> <p>食形態</p> <ul style="list-style-type: none"> ペースト状またはピューレ状のもの 水分が多いものは、とろみ剤で調整 <p>対象患者</p> <ul style="list-style-type: none"> 中等度嚥下障害者 咽頭残留がない人、あっても交互嚥下で除去できる人 舌により送り込み可能で、口腔内残渣はないが、押し潰し咀嚼ができない人 	 <p>食形態</p> <ul style="list-style-type: none"> 咀嚼力が弱くても歯を用いて咀嚼できるように、ある程度刻んであるものや軟らかく調理したもの 水分のとろみは各自 <p>対象患者</p> <ul style="list-style-type: none"> 軽度嚥下障害者 粒のままでは咽頭残留するが、まとめやすい食材やとろみをつけると咽頭残留がない人 押し潰しや歯茎で咀嚼できる人

摂食・嚥下障害のチェックポイント



- ① 全身状態 元気?! 最近、痩せてきてない?
- ② 姿勢は大丈夫? 食べさせ方は?
- ③ 口腔ケアはできている?
- ④ 口の中に食べ物が残りやすい? むせはない?



毎日、楽しく・おいしく・安全に食べ続けることが出来るよう、患者さんの状態をよく観察することが大切です。

科別診療割表

診療受付時間 午前8時30分から午前11時まで
 休日 土曜日・日曜日・祝日・12月29日から翌年1月3日

科別	曜日	月	火	水	木	金	備考
内科	1 診	山脇 泰秀 内科全般	山脇 泰秀 内科全般	藤野 寿幸 内分泌代謝	山脇 泰秀 内科全般	宮田 明 内科全般	
	2 診	藤野 寿幸 内分泌代謝	水戸川 剛秀 内科全般	橋本 昌美 甲状腺・腎臓	水戸川 剛秀 内科全般	藤野 寿幸 内科全般	
	3 診	城戸 雄一 糖尿病	開原 正展 腎・高血圧	開原 正展 腎・高血圧	橋本 昌美 アレルギー・腎臓	辻 憲二 腎臓内科	
	4 診		橋本 洋夫 リウマチ・膠原病		城戸 雄一 糖尿病		
総合診療科		難元 紀和	宮田 明	甲斐 華恵		岩戸 真紀	
呼吸器科		巻幡 清		巻幡 清	川真田 修	巻幡 清	木曜日は外科外来で診療
消化器科	診察	甲斐 華恵	前島 玲二郎	河合 良成	河合 良成	前島 玲二郎	
循環器科	診察	小林 博夫	河合 勇介	高村 俊行	高村 俊行	小林 博夫	
神経内科			岡本 美由紀			逸見 祥司	
外科	1 診	中井 肇 肝・胆・膵・消化器	宇田 征史 消化器・鏡視下	宇田 征史 外科全般	中井 肇 肝・胆・膵・消化器	村田 年弘 外科全般	
	2 診	久保田 暢人 外科全般	上塚 大一 消化器・ヘルニア	上塚 大一 肛門科	川真田 修 呼吸器	川真田 修 乳腺・食道	
整形外科	1 診	廣岡 孝彦	藤井 淳一	廣岡 孝彦	小瀬 靖郎	廣岡 孝彦	
	2 診	藤井 淳一	東條 好憲	小瀬 靖郎	東條 好憲	川上 直明	
	3 診	小瀬 靖郎	装 具	川上 直明	藤井 淳一	装 具	
	4 診	河合 亮	河合 亮				
小児科		佐藤 正義	佐藤 正義	佐藤 正義	佐藤 正義	佐藤 正義	月1回林優子 偶数月第4金曜日脳研自
脳神経外科	1 診	土本 正治	合田 雄二	岩戸 英仁	土本 正治	合田 雄二	
	2 診	合田 雄二					
産婦人科	新患再来 妊婦健診	大村 裕一	岸本 佳子 大村 裕一※	大村 裕一	大村 裕一	大村 裕一	※9時30分より診察
皮膚科		上田 武滋	上田 武滋	上田 武滋	上田 武滋	上田 武滋	
泌尿器科	1 診	大枝 忠史	甲斐 誠二	大枝 忠史	野崎 邦浩	大枝 忠史	
	2 診	野崎 邦浩	大枝 忠史	野崎/甲斐※	大枝 忠史	甲斐 誠二	※隔週交代
耳鼻咽喉科		竹田 雅聖	竹田 雅聖	竹田 雅聖	竹田 雅聖	竹田 雅聖	
眼		諫見 久恵	諫見 久恵	諫見 久恵	手 術	諫見 久恵	
放射線科	画像診断	三船 啓文 岸 亮太郎	三船 啓文 岸 亮太郎	三船 啓文 岸 亮太郎	三船 啓文 岸 亮太郎	三船 啓文 岸 亮太郎	
	治療		勝井 邦彰			勝井 邦彰	火曜AM・金曜PM 予約診療
歯科・歯科口腔外科		吉田 明弘	吉田 明弘	手 術	吉田 明弘	吉田 明弘	予約診療
内 科	検 診		検 診	検 診	検 診	検 診	
循環器科			ベースメーカー外来				14:00から
循環器科検査	心カテ		経食工コー	心カテ	経食工コー	心カテ	13:00から17:00
外科	手術		検査	手術	検査	手術	
整形外科	検査		手術	手術		手術	
小児科			乳児検診	予防接種	慢性疾患 予約外来	慢性疾患 予約外来	月～金 脳波検査
脳神経外科	検査		手術	検査	手術	検査	
産婦人科			母乳外来 1か月検診 手術	母親学級※	母乳外来 1週間検診 手術	1週間検診	※第2・3・4週のみ
皮膚科	手術		検査	手術	検査	検査	
泌尿器科	手術		手術	検査	手術	予約外来 検査	
耳鼻咽喉科	手術		検査	睡眠時無呼吸外来	手術	検査	
眼	検査		検査	検査	検査	検査	
放射線科	画像診断		画像診断 血管造影	画像診断	画像診断 血管造影	画像診断	
歯科・歯科口腔外科	手術		手術	口腔外科	検査	口腔外科	予約診療
専門外来	乳腺外来 (松岡・本後)		血管診療検査 (血管診療センター)	睡眠時無呼吸外来 (竹田)	血管診療検査 (血管診療センター)		
	禁煙外来 (上田)		ベースメーカー外来 母乳外来・1か月検診 黄斑外来(諫見)	母親学級 もの忘れ外来(松山)※	母乳外来・1週間検診 肝臓専門外来 (中井・河合良)	1週間検診	予約制 ※第1・3週のみ

案内図

